

南アルプス市立豊小学校 令和2年度後期学校関係者評価書

令和3年1月26日
豊小学校学校関係者評価委員会
委員長 梅本澄雄



【第3回学校関係者評価委員会】

1 実施日 令和3年1月22日

2 会場 豊小学校相談室

3 参加者

(1) 学校関係者評価委員

NO	氏名	役職	備考
1	津久井豊徳	豊地区自治会長・元校長（楡形中学校）	副委員長
2	齊藤 尚子	元校長（豊小学校）	
3	梅本 澄雄	豊地区教育振興会長・元校長（豊小学校）	委員長
4	保坂 邦博	東吉田自治会長	
5	吹野 武文	豊地区主任児童委員	
6	宮沢 茜	PTA会長（保護者代表）	

(2) 学校職員（3名）

NO	氏名	役職	備考
1	名取 広行	校長	本校在籍2年目
2	井上 武人	教頭	本校在籍2年目／事務局
3	上野 中	教務主任	本校在籍1年目

4 学校から提案された内容

- (1) 教職員による後期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する後期児童アンケートの状況
- (3) 学校生活に関する保護者アンケートの状況
- (4) 豊小学校後期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

5 協議内容・意見

○豊小学校後期自己評価書に対する考察

（教職員・児童・保護者アンケートの考察／改善方策に対する検証）

(1) 教育目標について

- ・これからも教育目標や教育方針の周知を含め、保護者が豊小学校の教育目標や教育方針を十分に理解し、お互いに連携を取りながら児童たちの成長を目指して取り組んでほしい。

(2) 学校運営・組織について

- ・教育指導重点の一つである特別支援教育の充実については、コーディネーターを今年度は3人体制で取り組んできたことにより、全職員がお互いコミュニケーションを図りながら、また学習しながら一人一人の児童理解に努めてきたことがうかがえる。

(3) 学習指導について

- ・GIGAスクール構想にこれまでも学校教育の方法から大きな転換が図られるが、そんな中でも教師と児童が対面して学ぶこと、また個性に合った教育をしていくことが大切。ICT機器をどう授業に生かすかが課題になってくるであろうが、時代の流れに沿った課題に対し、児童たちに格差が出ないように、また上手に活用できるようこれからも取組をお願いしたい。

(4) 特別活動について

- ・挨拶運動では、6年生が中心となり毎朝行っている。下級生もそれにならない元気に挨拶をしている。学校外の児童たちの様子を見ても、挨拶をする習慣が身につけていることが伺える。小学校から中学校へつながっていくことが当地区の文化になっていく。無言清掃とともに、今後も大きな成果となるよう期待したい。
- ・児童会テーマの「ONE TEAM」の取組は、素晴らしい。人間関係が希薄になっている今だからこそ、上級生が下級生に指導したり、各学年の中で協力し合って活動したりする取組が豊小学校の児童会の活動の骨子になっていることはとても意味のあること。学校・保護者・地域が一体となり、今後も児童を育てていく力をつけていくことが大切である。

(5) 生徒指導・生活指導について

- ・あやめっ子タイムの取組を中心として、児童が自分の言葉や文章で表現できるようになってきていることは、大きな成果である。これからもこうした取組を継続することで、豊小学校の文化にしてほしい。
- ・SNSやオンラインゲーム上でのトラブルは大きな課題となっている。早い段階から親子で考えることが大切であるが、学校保健委員会などの機会に、保護者も含めて考える機会を設けたことは非常に大きな意味を持つ取組であった。
- ・自己肯定感を高めることは生きる力に結びついていくものである。自己肯定感を高めるためには、成功体験を積むこと、また人から認められる経験をさせること、また集団の中で自分の考えを発言できる勇気をつけることも大切である。また今後もそうした経験が積めるよう、取組を続けてほしい。

(6) PTA・地域社会との連携について

- ・学校と地域との垣根が低くなくてはならない。保護者と教職員が協力しつながっていくことで、学校が機能的に運営されていくことにつながる。各学校はそれぞれの地域や住民と結びつくことで、学校の持ち味を生かすことができる。「人財産」という言葉があり、学校や保護者、地域の人との結びつきが財産になる。これからも保護者や地域とのつながりを大事にしてほしい。

(7) その他

- ・児童の指導において、いけないことはいけないとしっかり指導する必要がある。指導したあとには必ずフォローし、児童との関係をその日のうちに修復し、児童が安心して帰宅することができるよう、また児童も親も「納得」できるような指導をしていくことが大事である。